

# 地域再発見プロジェクト

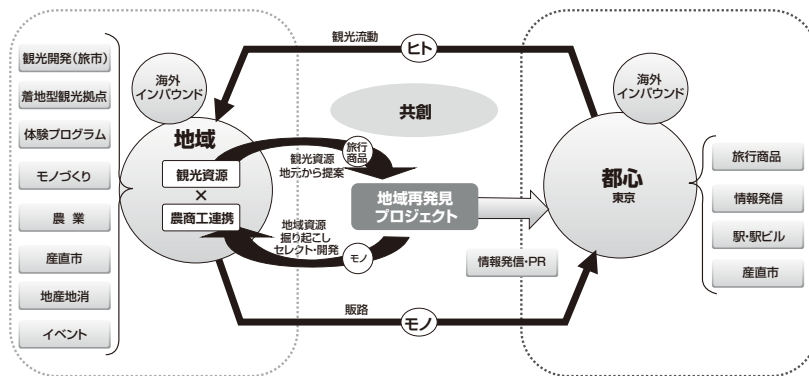
「共創」戦略のもと、東日本エリアにおける人やモノの交流と、新たなマーケットの創造をめざします。

## 「地域再発見プロジェクト」とは

人口減少や少子高齢化、都市への一極集中が、地方の経済、文化、伝統、技術の存続を危うくする中において、JR東日本グループのさらなる発展のためには、地域がもつ魅力を高めることで、地域間の流動をつくり出していく必要があります。そのため、鉄道事業と生活サービス事業の横断プロジェクト「地域再発見プロジェクト」を発足し、JR東日本グループと地域が役割を明確にしながるとともに知恵を絞る「共創」戦略のもと、人とモノの交流をはかることで首都圏と地方の間で大きな循環を生み

出すことをめざし、さまざまな取組みを行っています。

また、2011年3月に発生した東日本大震災は、東日本エリアの農畜産業や観光業等の地域経済に大きな打撃を与えています。これらのエリアの地域経済の早期回復は当社の円滑な事業展開に必要な不可欠なものであり、「地域再発見プロジェクト」で培った地域との関係やノウハウを活用した継続的な支援活動に積極的に取り組んでいます。



## 具体的な取組み

「地域再発見プロジェクト」では、鉄道ネットワークや首都圏を中心とした販路・情報媒体を活用し、伝統文化や技術、地産商品といった有形無形の観光資源の発掘と販路の拡大、首都圏と地方の双方向での人の流動創出を推進しています。2009年度には、岩手エリアと館山エリアにおいて地産地消やスポーツをテーマとした長期滞在型ホテルのリニューアル、越後湯沢エリアでの地域の特色を活かしたステーションルネッサンスを展開しました。2010年度には、東北新幹線新青森開業にあわせ、青森市のまちづくり構想と連携し、青森駅前の青森ウォーターフロントエリアに日本一の生産量を誇る青森県産りんごをシールドなどに加工する「工房」と青森県の農産物等を販売する「市場」の複合

施設「A-FACTORY」を開業しました。また、まだ知られていない観光資源を地元の方々が提案し、お客さまをご案内する旅行商品「旅市」を各地で展開しました。さらに、地産品や伝統工芸品の発掘、産直市の展開などを、地域と連携しながら定期的に推進することで、地域資源・地域産業の活性化に貢献しています。2011年度には、食を中心とした地産品ショップ「のもの」を常設店舗として上野駅に開業しました。地域の生産者や行政と連携しながら、一定期間ごとに各エリアにスポットを当てて、「旬のもの、地のもの、縁(ゆかり)のもの」といった各地域ならではの商品販売をしています。

地域再発見プロジェクト



地域に根ざした風土・文化、地産地消、人とのふれあい、をコンセプトとした旅行商品「旅市」。着地型観光という新たなマーケットの創造に挑戦。



各地域の食を中心とした「旬のもの、地のもの、縁(ゆかり)のもの」を販売する地産品ショップ「のもの」。併設のカフェでは地場食材を使用したメニューを提供。



地域観光の玄関口と位置づけ開発した商空間「かんぎどおり」。広域観光案内やレンタカー機能などを備えた「ビジターセンター」は英語にも対応。



東北新幹線新青森開業にあわせ、青森市のまちづくり構想との連携により開業した「A-FACTORY」。日本一の生産量を誇る青森県産りんごを活用した「工房」「市場」の複合施設。

## 今後の展開

東日本大震災により被害を受けている地域への支援として、観光キャンペーンの実施や情報発信性の高いエキナカや駅ビルにおいて農畜産物や工芸品等を販売する産直市等を開催し、地元生産者などへの還元による支援を当社グループとして継続的に取り組んでいきます。また、観光需要の回復は地域および当社にとって重要な課題であり、東日本の各地域を取り上げて地産品の販売を行う地産品ショップ「のもの」や、地域の農産物や工芸品等を販売する「地域再発見プロジェクト産直市」、旅行商品「旅市」を通して、地域の新たな魅力や情報の発信に地域と連携して取り組んでいきます。



首都圏の駅構内で定期的に開催する「地域再発見プロジェクト産直市」。地域の農産物や名産品等の販売と観光PRを通じて地域の隠れた魅力や情報を発信。